

島根県松江市 塩見縄手地区（景観地区）



「日本の道100選」（国土交通省、昭和62年）にも選ばれた塩見縄手は、松江城北側の堀沿いにあり、小泉八雲（ヘルン）旧居や武家屋敷などの観光施設が立ち並ぶ通りです。江戸時代にはこの通りに武家屋敷が軒を連ね、今なお当時の面影を残しています。

松江市では昭和48年に「伝統美観保存条例」を制定、この地区を「伝統美観地区」（※平成19年度からは景観地区）に指定しま

した。以来、日本瓦・白漆喰・下見板などの維持・保全、堀沿いの松の移植・補植、電線類の地中化などを行い、伝統美観を守ってきました。現在は、松江城や堀川遊覧船と並ぶ主要な観光スポットとなっています。

本物の武士が今にも現れそうな塩見縄手。いつまでも残したい“城下町松江”の景観です。



平成27年7月8日に天守が国宝に指定された松江城は、桜の名所としても有名です。桜の花が咲き誇り、青い空をバックに、美しく風格のある姿を見せてくれます。うらかな春の日に、ぜひこの美しい景観を眺めてみてください。



松江城周辺をライトアップする光のイベント「松江水燈路」（毎年秋に開催）。写真左側が塩見縄手、右側が堀と城山の森です。

松江大橋



松江開府から400年。この間ずっと人々の営みと大橋川を見つめてきた松江大橋は、現在の橋で17代を数える「水の都松江」のシンボルです。源助の悲話も、小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）を迎えたカラコロという下駄の音も、松江大橋にまつわるエピソードとして松江

人の郷愁を誘います。橋上から北西に松江城、澄み渡った晴れの日には南東に出雲富士（大山）を望むことができます。また、朝靄に浮かぶしじみ船との情景やライトアップされ川面に浮かびあがる姿は、ゆかしい松江の景観を身近に感じることができます。

一度は訪れていただきたい松江開府の原点、松江大橋です。

宍道湖の夕日



松江を代表する景観のひとつに宍道湖の夕日があります。宍道湖の夕日は「日本の夕日百選」（NPO法人日本列島夕日と朝日の郷づくり協会）にも選ばれるほど美しく、天気の良い日にはこの景色に魅了された多くのファンたちがベストショットをカメラに収めようと詰めかけます。

初めて訪れた方もこの夕日を目の当たりにすれば、即座に魅了されることでしょう。

夕日の沈む方角は神々の里出雲の地（出雲大社等）であり、雲の切れ間から湖面に射す日の光は神々しささえ感じます。3月頃と9月頃の夕日が特にお薦めです。



島根県松江市



島根県松江市塩見縄手地区
ＪＲ松江駅からバスで約１５分
塩見縄手下車すぐ

島根県松江市 松江大橋
ＪＲ松江駅からバスで約５分
大橋南詰下車すぐ